

平成19年3月期 本決算説明会

平成19年5月18日

平成18年4月－平成19年3月

ご注意

本資料に含まれる予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本及び世界の経済動向、新たな技術開発の進展により変動することがあります。従って、当社としては、その確実性を保証するものではありません。

Contents



1. 平成19年3月期の概況
2. 計測・計量機器事業 実績-1
3. 計測・計量機器事業 実績-2
4. DSP事業の業績について
5. 当社が推進する新しいNew Bench system
6. エンジン実験棟の増設について
7. 医療・健康機器事業 実績-1
8. 医療・健康機器事業 実績-2
9. 家庭用血圧計の生産状況
10. 血圧計ビジネスの躍進を支える原動力①
11. 血圧計ビジネスの躍進を支える原動力②
12. 財務分析(貸借対照表)
13. 財務分析(キャッシュフロー)
14. 設備投資・減価償却費の推移
15. 平成20年3月期通期見通し
16. 計測・計量機器事業 見通し-1
17. 計測・計量機器事業 見通し-2
18. 医療・健康機器事業 見通し-1
19. 医療・健康機器事業 見通し-2
20. 中期経営計画
21. 補足資料

平成19年3月期の概況



(単位：百万円)

連結損益	18/3期 (実績)	19/3期		19/3期 (実績)	前期比	19/3期 予想	予想比	コメント
		上期	下期					
売上高	31,226	14,687	20,080	34,767	+11.3%	34,567	+0.6%	
売上原価	18,039	7,921	10,801	18,722	+3.8%	18,224	+2.7%	
販売費及び 一般管理費	9,839	5,892	6,811	12,703	+29.1%	12,231	+3.9%	開発費の増加、ADRでの費用発生
営業利益	3,348	874	2,469	3,342	-0.2%	4,113	-18.7%	
経常利益	3,192	879	2,539	3,418	+7.1%	3,871	-11.7%	為替差益280百万円、 開発助成金135百万円
税引き前 利益	3,156	884	2,510	3,394	+7.5%	3,869	-12.3%	
当期純利益	1,936	606	1,743	2,349	+21.3%	2,544	-7.7%	

(注) 19/3期予想は、11月16日付の「平成19年度3月期中間決算短信（連結）」にて発表した予想であります（以下同じ）。

計測・計量機器事業 実績－1



(単位：百万円)

セグメント		18/3期 (実績)	19/3期 (実績)	前期比	19/3期 予想	予想比
計測・計量機器事業	売上高	19,776	19,868	+0.5%	21,147	-6.0%
	売上原価	11,660	11,554	-0.9%	11,879	-2.7%
	販管費	5,786	7,108	+22.8%	6,799	+4.5%
	営業利益	2,330	1,207	-48.2%	2,470	-51.1%

業績のポイント

- 既存事業は堅調だったが、新規事業が伸び悩む
⇒売上高前期比+0.5%増加（予想比-6.0%）
- DSP事業において、A&D TECHNOLOGY INC.（アメリカ現法。以下「ADT」）との技術統合及びIAV GmbH（ドイツのコンサルティング会社。以下「IAV」）との共同開発等、事業展開の早期化のため引き続きの経費先行の状況が続いた
⇒販管費が大幅に増加し、営業利益は実績・予想ともに下回る

計測・計量機器事業 実績－2



(単位：百万円)

製 品 種 別	18/3期 (実績)	19/3期		19/3期 (実績)	前期比	19/3期 予想	予想比
		上期	下期				
計 測 機 器	1,842	818	1,177	1,995	+8.3%	1,727	+15.5%
計 量 機 器	10,648	5,426	6,027	11,453	+7.6%	11,460	-0.1%
計測・制御・シミュレ ーションシステム(新規)	4,583	2,056	2,076	4,132	-9.8%	5,324	-22.4%
電 子 ビ ー ム 関 連 ユ ニ ッ ト	2,703	1,367	921	2,288	-15.4%	2,637	-13.2%
売 上 合 計	19,776	9,668	10,201	19,868	+0.5%	21,147	-6.0%

計測機器 : 従来機種に加えて、引張試験機の新製品、DSP応用試験機も好調

計量機器 : 天秤を主因に全体的に堅調に推移し、計量システムも下期増加

DSP(新規事業) : 開発の遅れもあり、国内・海外マーケットともに伸び悩み

電子ビーム関連ユニット : 納入時期のずれもあり下期伸びず

DSP事業の業績について

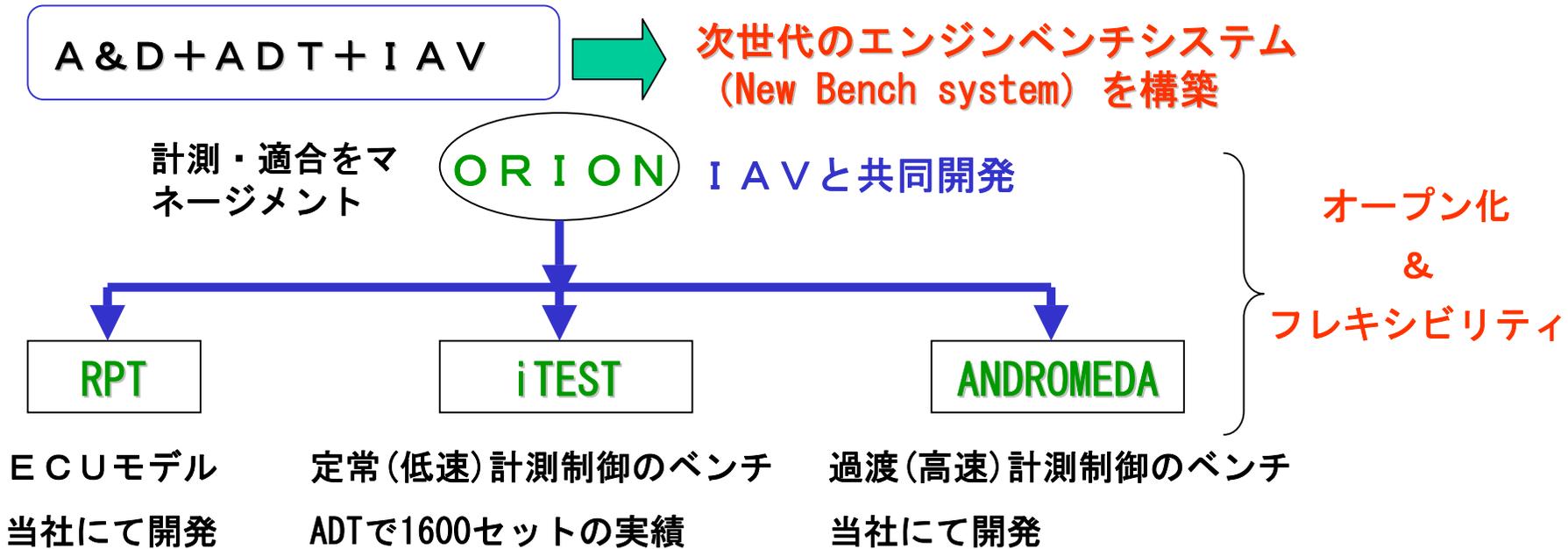


(単位：百万円)

	用途種別	17/3期 (実績)		18/3期 (実績)		19/3期 (実績)	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
新規事業	自動車関連	436	858	964	1,595	1,803	1,811
	試験機関連	119	388	63	80	42	78
	その他	113	5	209	1,672	211	187
	小計	668	1,252	1,236	3,347	2,056	2,076
既存事業への DSP技術応用	特殊試験機関連	18	182	186	162	144	252
	計量制御関連	36	60	42	49	53	221
	医療機器						
	小計	55	241	228	211	197	473
合	計	723	1,493	1,464	3,558	2,253	2,549
売上合計	(通期)	2,216		5,022		4,801	

新規事業は、ADTとの技術統合の問題もあり、開発遅れ等により国内・海外ともに伸び悩み（前期は防衛庁での大口案件有り）。しかし、ORION（IAVとの共同開発）のベース完成により技術統合にも目処が付き、今後の飛躍のための素地ができつつある。DSP応用においては、試験機・計量システムが共に下期から伸びてきており、更なる増加を期待。

当社が推進する新しいNew Bench system



定常⇒過渡 自動車開発の新しい流れに当社は応える

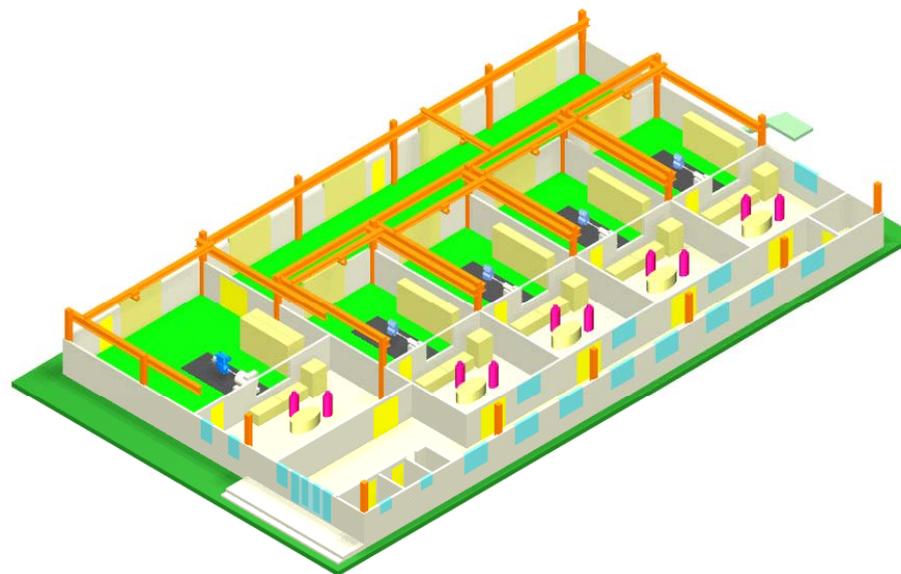
プロセス	従来	今後
①計測	定常計測	過渡(高速)計測
②適合	定常適合	過渡(高速)適合
③評価	シャーシダイナモ	シミュレーション

エンジン実験棟の増設について

自動車メーカーの更なる期待に応えるために、既に国内大手自動車メーカーとの共同開発が進んでいる第2実験棟に加えて、新たに実験棟を新設(平成19年2月竣工)

■ 設備の特徴

- ・ New Bench systemを設置することにより、より高度な開発ツールの開発が可能
- ・ 環境問題への対応として現在注目されているディーゼルエンジンの開発にも対応



医療・健康機器事業 実績－1



(単位：百万円)

セグメント		18/3期 (実績)	19/3期 (実績)	前期比	19/3期 予想	予想比
医療・健康機器事業	売上高	11,450	14,899	+30.1%	13,420	+11.0%
	売上原価	6,379	7,168	+12.4%	6,345	+13.0%
	販管費	3,002	4,446	+48.1%	4,253	+4.5%
	営業利益	2,069	3,284	+58.7%	2,822	+16.4%

業績のポイント

1. 家庭用血圧計が引き続き好調。ロシアでのM&Aを主因に売上高が大幅増加。
⇒売上高30.1%増
2. ロシアでのM&Aによる販管費増を吸収し、営業利益ベースでも大幅増加
⇒営業利益58.7%増

医療・健康機器事業 実績－2



(単位：百万円)

製品種別	18/3期 (実績)	19/3期		前期比	19/3期 予想	予想比
		上期	下期			
医療機器	2,696	861	886	-35.2%	2,436	-28.3%
健康機器	8,754	4,159	8,993	+50.2%	10,985	+19.7%
売上合計	11,450	5,020	9,879	+30.1%	13,420	+11.0%

医療機器：体制整備（販売チャネルの見直し等）と新製品開発の遅れにより、上期に引き続き下期も低調

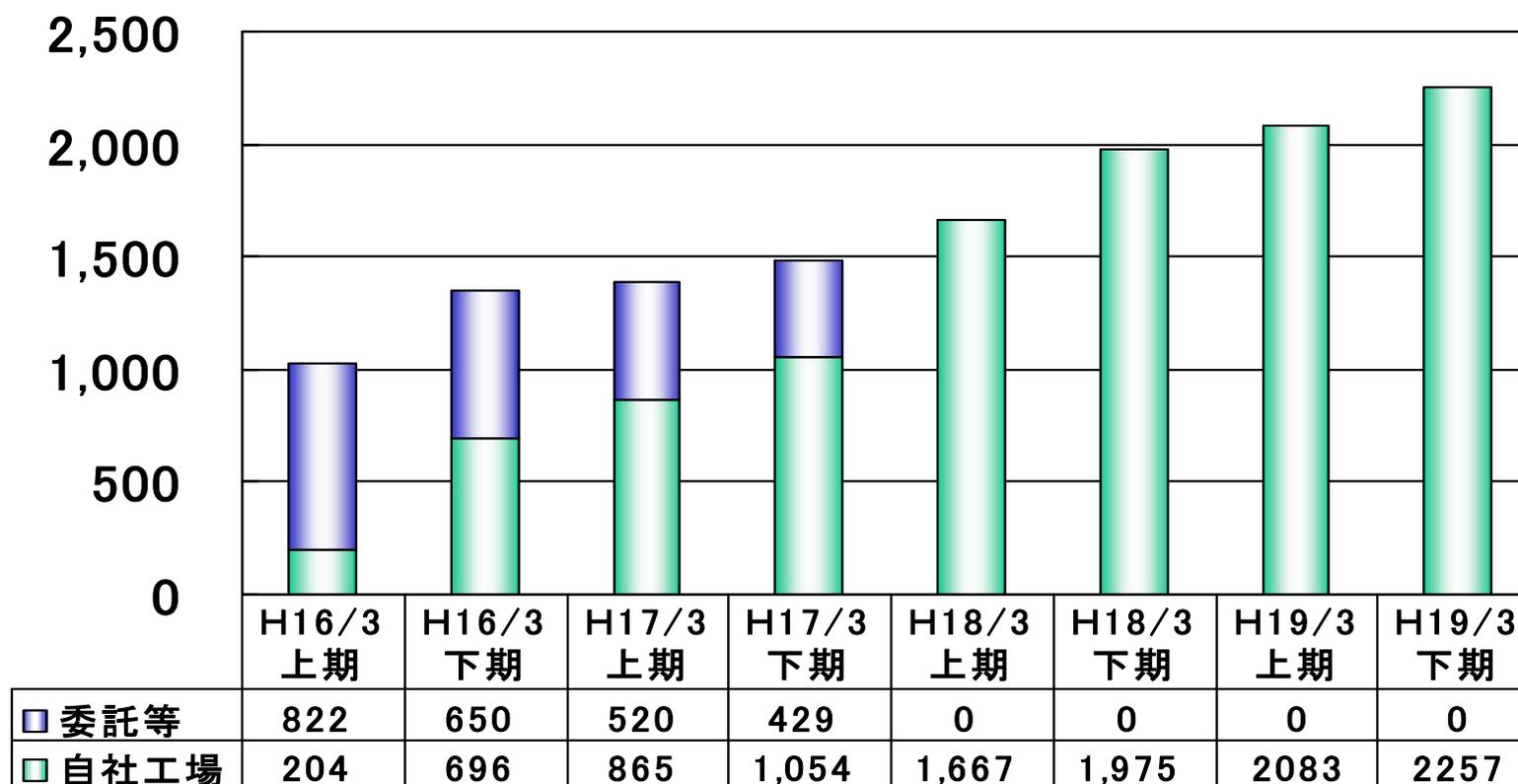
健康機器：ロシアにおいてはM&A効果、他の地域も順調

家庭用血圧計の生産状況



中国における家庭用血圧計の生産状況

単位：千台



血圧計ビジネスの躍進を支える原動力①



愛安徳電子（深圳）有限公司（ADCH）

新工場への移転完了（平成19年1月）

- ・ 生産台数が25%増加（年間500万台体制）
- ・ 部品の一層の内製化を図りコスト削減を実現
- ・ 秤等の生産を行い、世界最適地生産を推進

工場概要

工場面積	25,000m ² （延床面積で従来の約2倍）
従業員数	1,250名
敷地面積	13,500m ²
住所	中国深圳市



血圧計ビジネスの躍進を支える原動力②



A&D RUS CO., LTD. (ADR)

平成18年7月新設

本社：モスクワ市

支店数：100万人都市に12支店

従業員：392人

マーケット環境

- ・ロシア経済は資源価格の高騰もあり好調を維持
- ・個人消費を中心に内需も高い伸び

→ 家庭用血圧計のマーケットも順調に拡大

当社の成功要因

- それぞれの流通チャネルにあった製品展開
- キャンペーン活動の実施、新企画製品の投入による新マーケットの創出
- 15年のビジネスキャリアによるブランド力（「Brand of the Year」受賞）

→ ADRの新設により、販売戦略をより強力に推進



財務分析（貸借対照表）



■ 貸借対照表分析

（単位：百万円）

連結貸借対照表	18/9期 (実績)	19/3期 (実績)	前期比	コ メ ン ト
流動資産合計	30,752	32,590	6.0%	受取手形及び売掛金+2,800 棚卸資産+473、 現金・預金△1,625
固定資産合計	13,282	14,163	6.6%	機械装置・工具器具等+434 建設仮勘定+320 長期前払費用+218
資産合計	44,033	46,753	6.2%	
負債合計	26,116	27,135	3.9%	長・短借入金+1,374 未払金+967 支払手形及び買掛金△1,591
純資産合計	17,918	19,618	9.5%	利益剰余金+1,632
負債純資産合計	44,033	46,753	6.2%	

財務分析（キャッシュフロー）

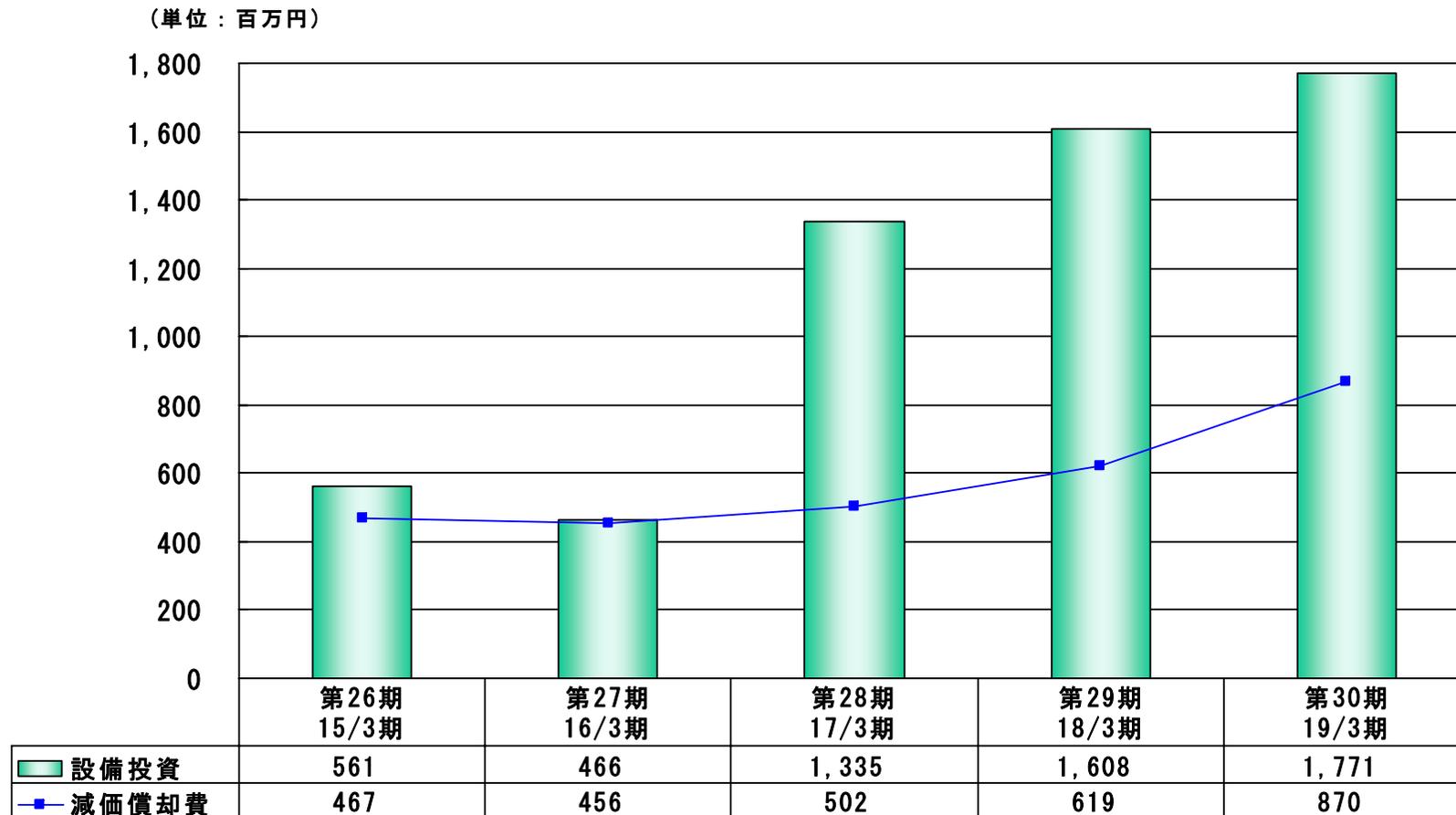


■ キャッシュフロー分析

（単位：百万円）

連結キャッシュフロー	18/3期 (実績)	19/3期 (実績)	コ メ ン ト
営業活動によるCF	2,058	△1,396	税前純利益+3,394、減価償却費+1,356、売上債権増△3,581、棚卸資産増△2,048、法人税等支払い△1,648、その他+1,294
投資活動によるCF	△3,936	△4,716	有形固定資産の取得△1,743、無形固定資産の取得△2,625
財務活動によるCF	3,212	4,326	長・短借入金増+5,181、社債償還△700
現金及び現金同等物の増加額	1,336	△1,704	
現金及び現金同等物の期末 残高	4,975	3,272	

設備投資・減価償却費の推移



設備投資は、第3実験棟の建設等によるDSP関連、医療健康機器関連ではADCH
移転及びADRの新設等もあり増加

平成20年3月期の見通し



(単位：百万円)

連結損益	19/3期 (実績)	20/3期 (予想)		前期比	
		上期	下期		
売上高	34,767	18,600	23,400	42,000	20.8%
売上原価	18,722	9,240	12,580	21,820	16.5%
販売費及び一般管理費	12,703	7,320	7,560	14,880	17.1%
営業利益	3,342	2,040	3,260	5,300	58.6%
経常利益	3,418	1,756	2,977	4,733	38.5%
税引き前 利益	3,394	1,748	2,970	4,718	39.0%
当期純利益	2,349	1,062	1,938	3,000	27.7%

計測・計量機器事業 見通しー1



(単位：百万円)

セグメント	19/3期 (実績)	20/3期		20/3期 (予想)	前期比	
		上期	下期			
計測・計量機器事業	売上高	19,868	10,000	12,000	22,000	10.7%
	売上原価	11,554	5,640	6,990	12,630	9.3%
	販管費	7,108	3,850	3,960	7,810	9.9%
	営業利益	1,207	510	1,050	1,560	29.2%

1. 売上

- ・新規事業の伸長を主因に堅調に推移

2. 販管費

- ・DSP事業における開発費は引き続き高水準で推移

計測・計量機器事業 見通し-2



(単位：百万円)

製 品 種 別	19/3期 (実績)	20/3期		前 期 比	
		上期予想	下期予想		
計 測 機 器	1,995	840	1,250	2,090	4.8%
計 量 機 器	11,453	5,830	6,200	12,030	5.0%
計測・制御・シミュレーションシステム(DSP)	4,132	1,960	3,120	5,080	22.9%
電子ビーム関連ユニット	2,288	1,370	1,430	2,800	22.4%
売 上 合 計	19,868	10,000	12,000	22,000	10.7%

計測機器	: 前期に引き続き、新製品・DSP応用試験機の拡販に注力
計量機器	: ロシア等の海外でのマーケット拡大、計量システムの市場浸透を図る
DSP	: ORIONを含めたNew Bench systemの本格的な販売、海外マーケットの拡大を目指す
電子ビーム関連ユニット	: 前期の納期遅れ等により増加

医療・健康機器事業 見通しー1



(単位：百万円)

セグメント	19/3期 (実績)	20/3期 (予想)		前期比		
		上期	下期			
医療・健康機器事業	売上高	14,899	8,600	11,400	20,000	34.2%
	売上原価	7,168	3,600	5,590	9,190	28.2%
	販管費	4,446	2,870	2,970	5,840	31.4%
	営業利益	3,284	2,130	2,840	4,970	51.3%

1. 売上

- ・ロシアでのM&A効果が通期で寄与する事もあり、大幅増加

2. 営業利益

- ・ロシアでのM&A効果、ADCHでの生産効率の向上

⇒営業利益は前期比51.3%増加の見込み

医療・健康機器事業 見通しー2



(単位：百万円)

製品種別	19/3期 (実績)	20/3期		前期比
		上期予想	下期予想	
医療機器	1,747	1,170	1,400	47.1%
健康機器	13,152	7,430	10,000	32.5%
売上合計	14,899	8,600	11,400	34.2%

医療機器：新たな販売チャネルでの営業力強化の徹底と、開発のスピードアップに注力

健康機器：ロシアではM&A効果が通期で寄与。中国や日本国内においても、ロシアでの成功事例を活かして市場を開拓

中期経営計画



- 1 中期経営計画の基本方針
- 2 計測機器・計量機器事業について
- 3 中期経営計画（計測・計量機器事業売上高）
- 4 医療機器・健康機器事業について
- 5 中期経営計画（医療・健康機器事業売上高）
- 6 中期経営計画（セグメント別収益）
- 7 中期経営計画（損益の概況）－ 1
- 8 中期経営計画（損益の概況）－ 2
- 9 DSP技術の全社的な展開について①
- 10 DSP技術の全社的な展開について②

(1) 新規事業

① DSP事業において、売上100億円を見据えた事業基盤の確立

- ・ ADTとの統合効果の発揮
- ・ IAVとのアライアンス活用

② 専門的人材の確保

(2) 既存事業

① DSP技術の応用展開を加速

② 中国・ロシア市場への積極的な展開

③ 中国工場（ADCH）の有効活用（部品内製化率の向上、秤生産の推進）

④ ME事業の再構築

(3) 人材確保

事業拡大と基本方針の着実な実行のために、優秀な人材確保に注力

1. 計測機器

- ・DSP応用試験機の拡販

2. 計量機器

- ・DSP技術を応用して、計量分野からFA市場等のマーケットを拡大
- ・ローエンド製品の中国工場（ADCH）での生産を推進
- ・ロシア市場への積極的な対応を図る

3. DSPシステム

- ・自動車市場の更なる深耕を図る
- ・アライアンスを活用して、海外マーケットを拡大
- ・新市場の開拓を積極的に進める

4. 電子ビーム関連ユニット

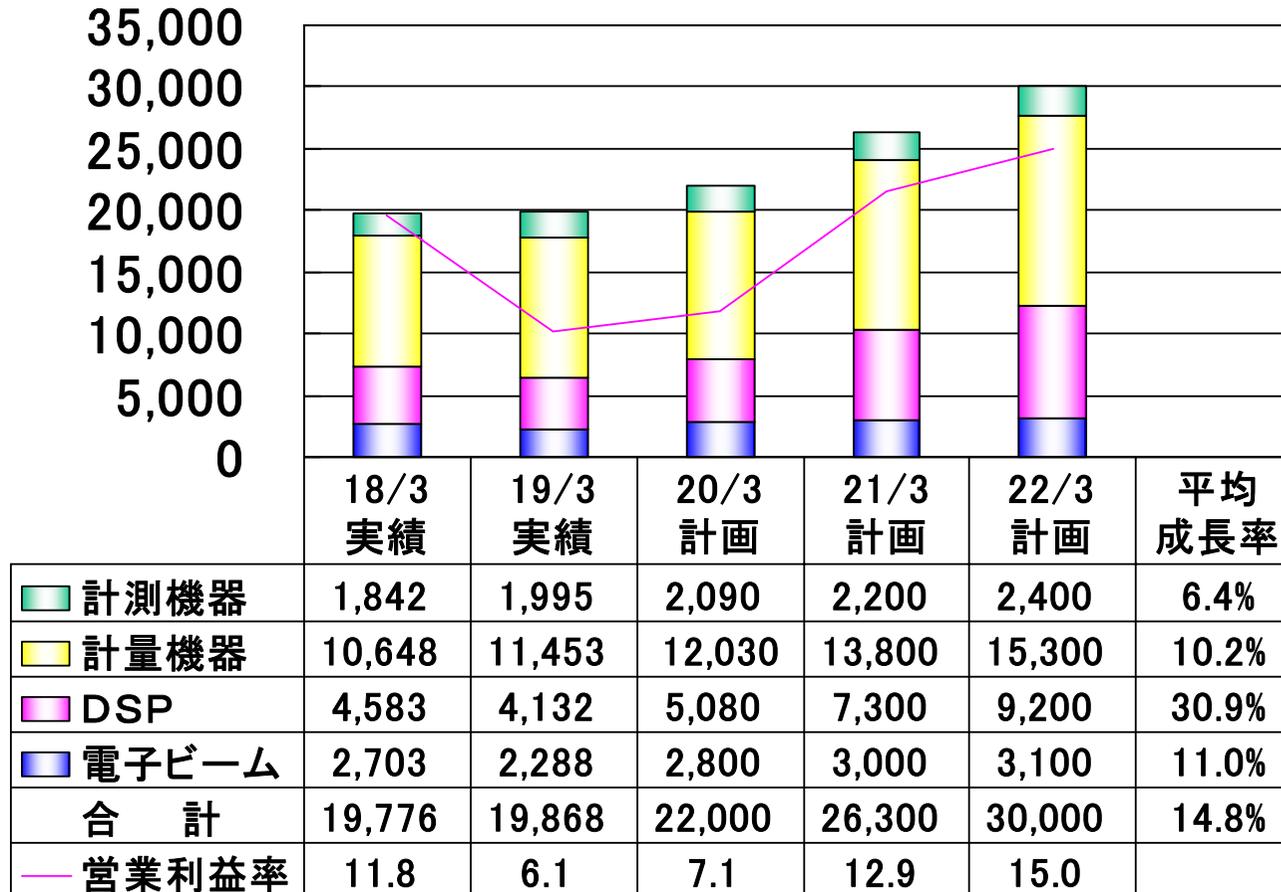
- ・技術の応用により市場の開拓に努める

中期経営計画（計測・計量機器事業売上高）



単位：百万円

単位：%



1. 医療機器

- ・新たな販売チャネルでの営業力強化を徹底
- ・アライアンスを活用した製品開発

2. 健康機器

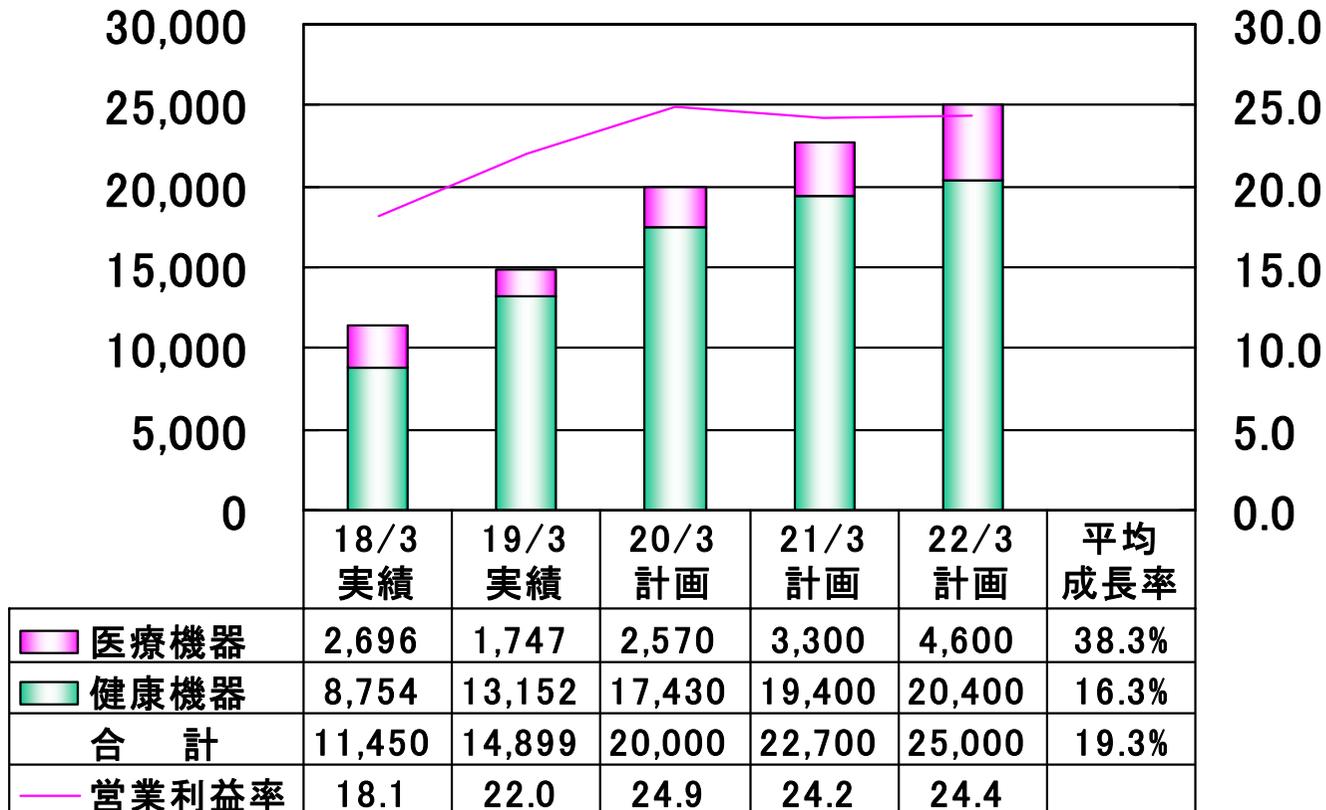
- ・中国での販売戦略の推進
- ・ロシア市場を中心に事業の維持拡大を図る

中期経営計画（医療・健康機器事業売上高）



単位：百万円

単位：%



中期経営計画（セグメント別収益）



(単位：百万円)

セグメント		19/3期 (実績)	20/3期 (計画)	21/3期 (計画)	22/3期 (計画)	平均 成長率
計測・計量機器業 事業	売上高	19,868	22,000	26,300	30,000	14.8%
	売上原価	11,554	12,630	14,600	16,700	13.1%
	販管費	7,108	7,810	8,300	8,800	7.4%
	営業利益	1,207	1,560	3,400	4,500	59.8%
医療・健康機器業 事業	売上高	14,899	20,000	22,700	25,000	19.3%
	売上原価	7,168	9,190	11,200	12,300	20.0%
	販管費	4,446	5,840	6,000	6,600	14.7%
	営業利益	3,284	4,970	5,500	6,100	24.3%
配賦不能費用		1,149	1,230	1,300	1,400	6.8%
営業利益計		3,342	5,300	7,600	9,200	41.0%

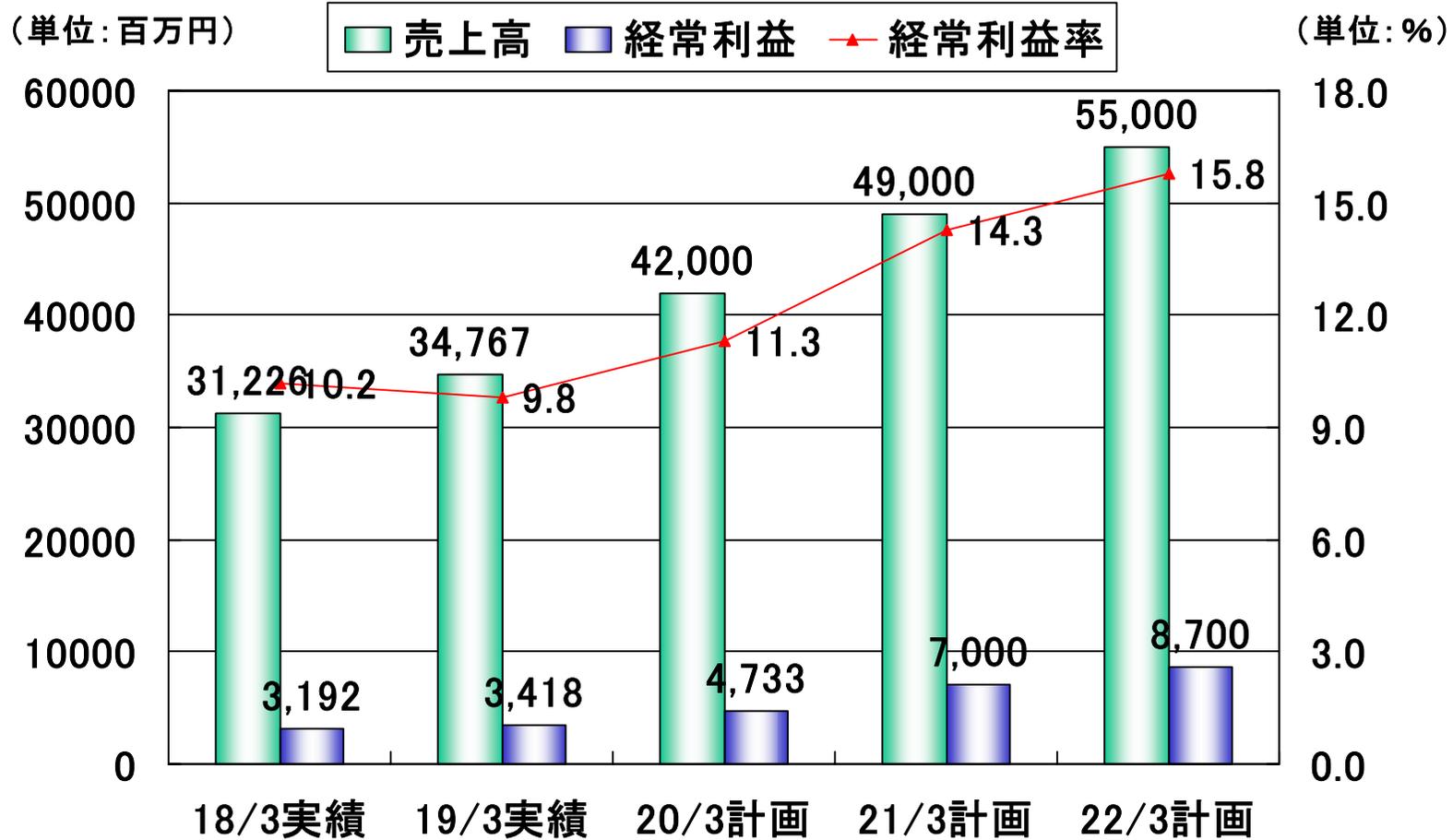
中期経営計画（損益の概況）－ 1



（単位：百万円）

連結損益	18/3期 (実績)	19/3期 (実績)	20/3期 (計画)	21/3期 (計画)	22/3期 (計画)	平均 成長率
売上高	31,226	34,767	42,000	49,000	55,000	16.6%
営業利益	3,348	3,342	5,300	7,600	9,200	41.0%
経常利益	3,192	3,418	4,733	7,000	8,700	36.9%
当期純利益	1,936	2,349	3,000	4,300	5,300	31.4%

中期経営計画（損益の概況）－ 2



DSP技術の全社的な展開について①

DSP技術を様々な製品に展開する環境がようやく整ってきました

数年前

ハードウェアの価格が高く、低価格製品へのDSP技術の
応用が難しかった



現在

コストの大幅削減
と省スペース化

従来製品と同様の製品価格で

- ▶ 製品開発の早期化を図れる
- ▶ カスタマイズが容易

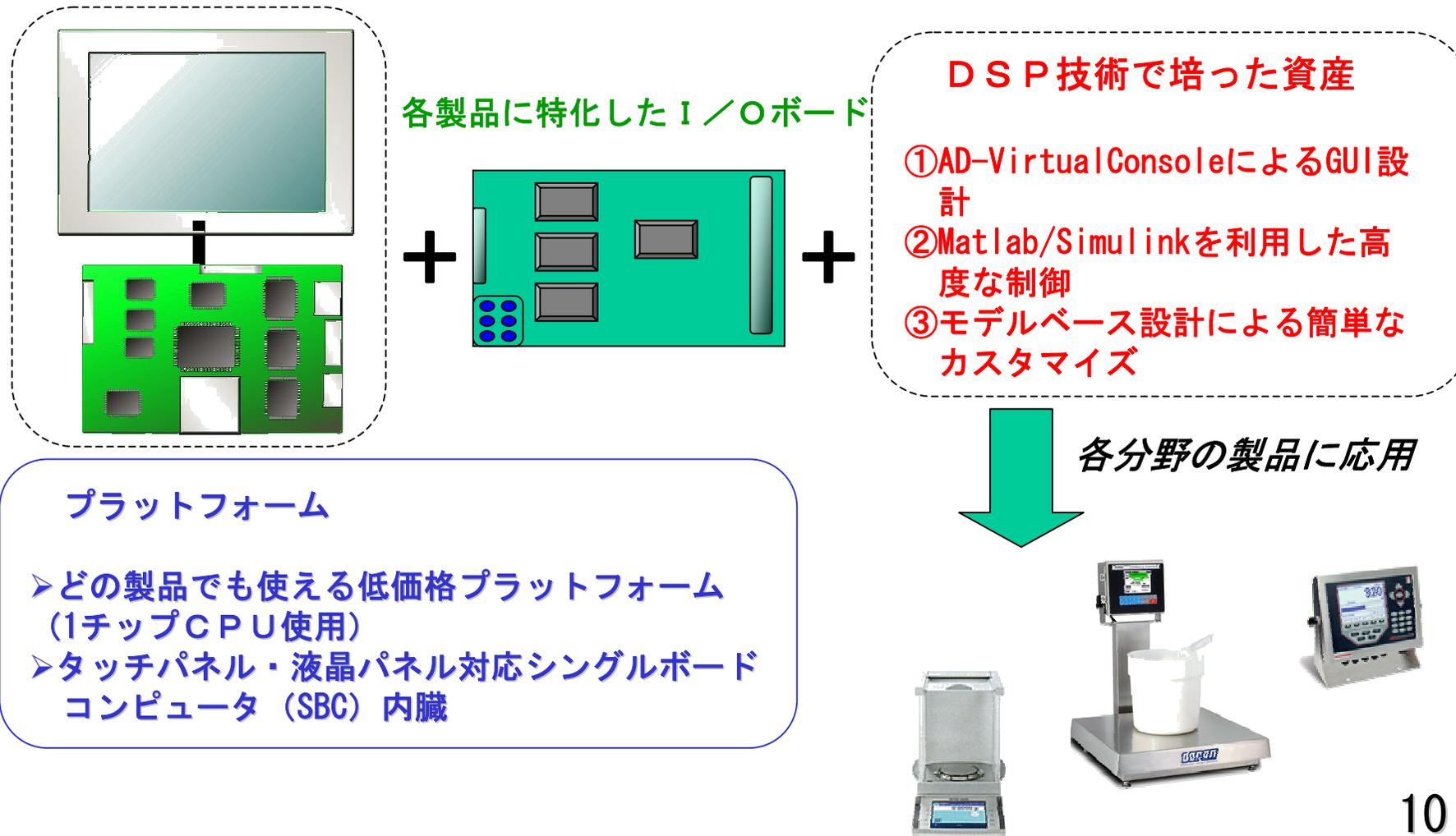
⇒ 価格競争力と付加価値を持った製品を生み出す事が可能に

DSP技術で培った
ソフトウェア技術



DSP技術の全社的な展開について②

当社の考える新しい製品構成について



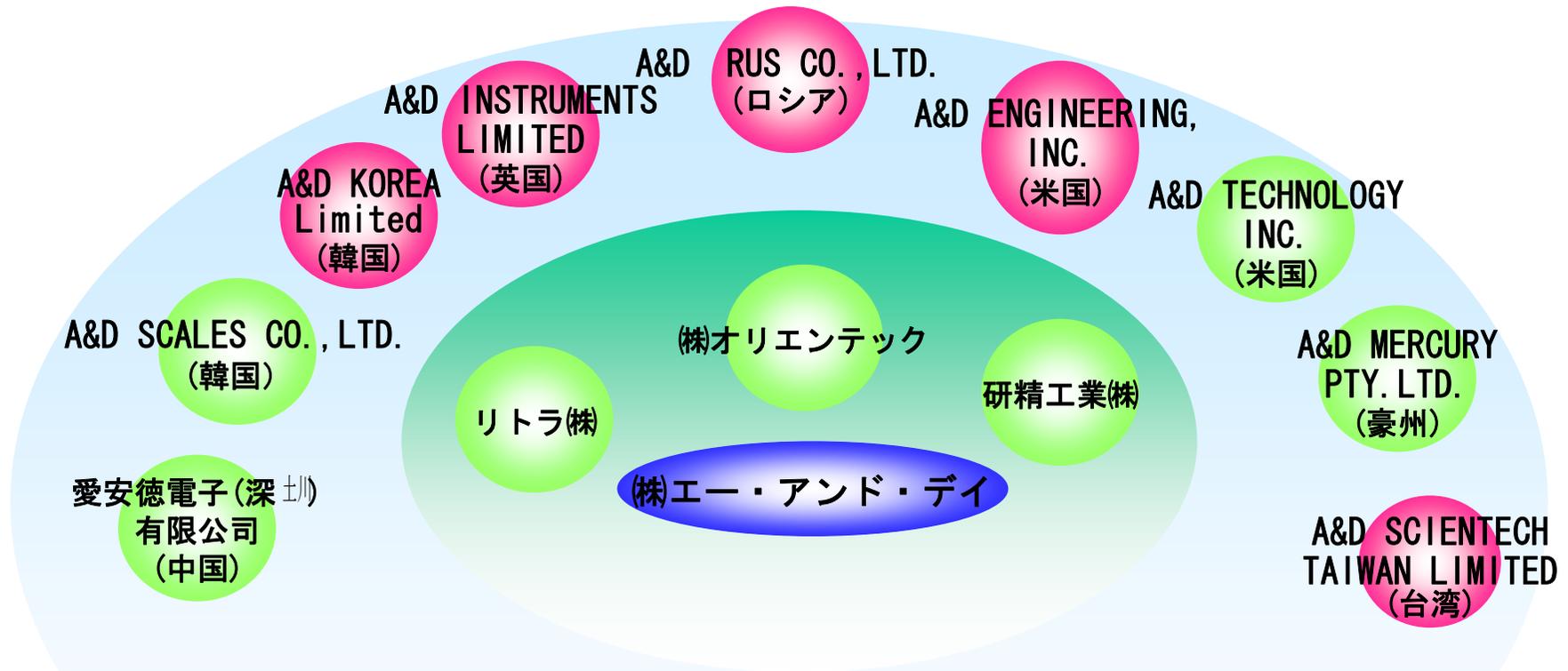
AND
株式会社 **エー・アンド・ティ**

補 足 資 料



- 1 グループの概況
- 2 IAV社と開発する新しい適合ツール（ORION）
- 3 開発の状況
- 4 為替の影響について
- 5 配当金と配当性向について

グループの概要



A & Dは開発および販売を中心に活動
生産主体は国内外関係会社
海外販売は関係会社経由と直販を併用

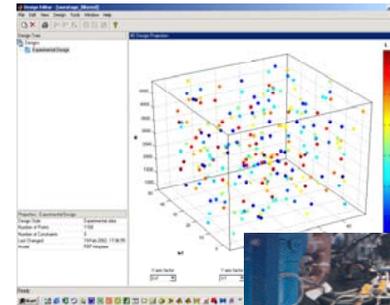
- 生産・開発関係会社
- 販売関係会社

IAV社と開発する新しい適合ツール (ORION)

1. 適合とは

ECU開発プロセスで、ECUがエンジンや変速機などの制御を最適に行うためにECUの設定作業（チューニング）を行うこと。

実験計画



2. ORIONの特徴

- ① IAVと協同開発を行う事により、実績が豊富なIAVの持つノウハウを取り入れる事が可能
- ② オープン仕様となっており、他のシステムとの接続が可能であり、またユーザーが計測アルゴリズムの作成等のカスタマイズを行う事が可能

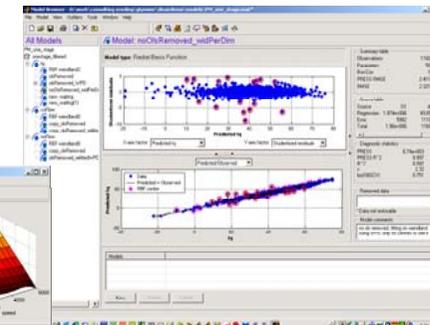
評価試験



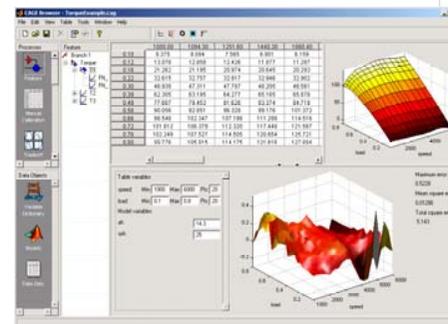
⇒他社には無い発想

- ③ 適合プロセス全体の効率化を図る事が可能

ECUのモデル化



適合



開発の状況



社内資源の多くを開発に投入し、
各事業分野で継続して開発を実施。

(平成19年3月末/A & D単体)

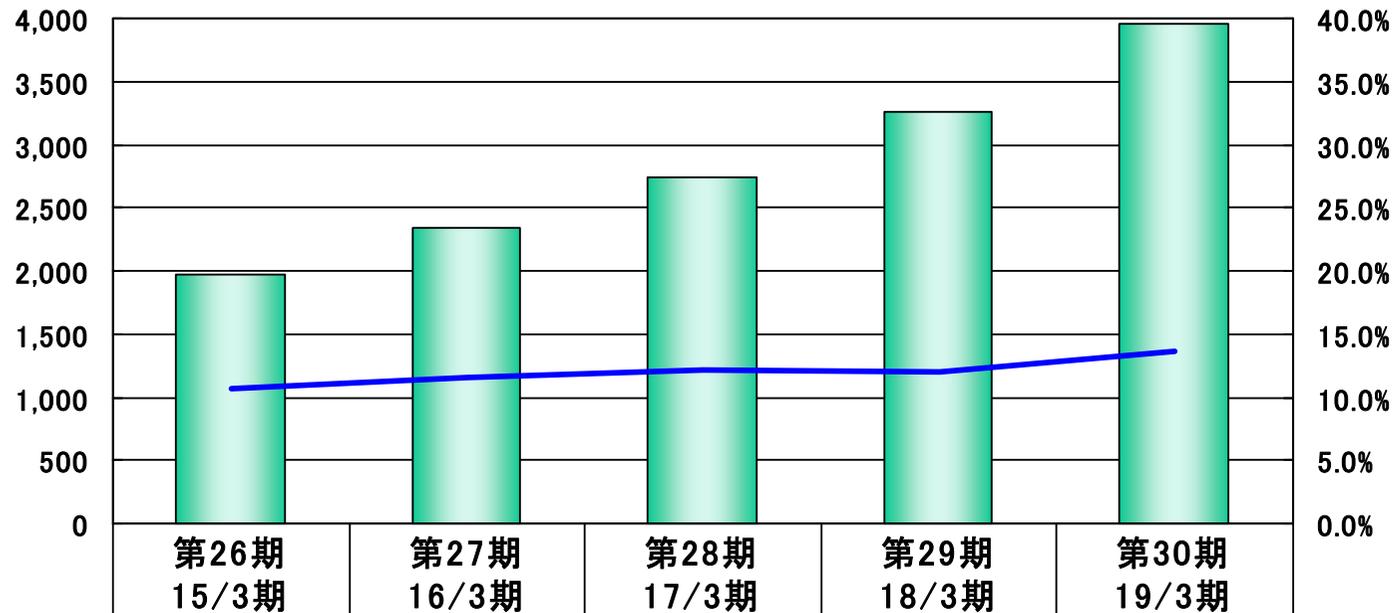
在来事業 162名 (54.4%)

新規事業 136名 (45.6%)

合 計 298名 比率

研究開発費
(単位:百万円)

※A & D単
体での状況

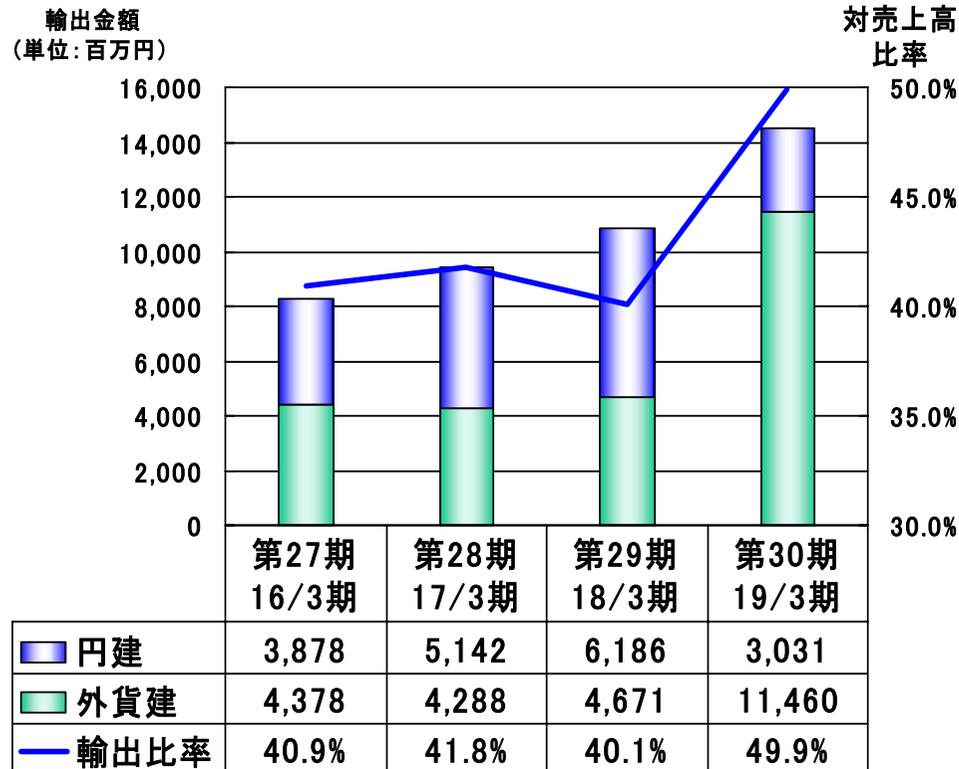


研究開発費	1,963	2,337	2,741	3,254	3,958
売上高比率	10.6%	11.6%	12.2%	12.0%	13.6%
開発人員比率	43.6%	45.8%	48.6%	49.4%	49.7%

為替の影響について



輸出の状況



19年3月期の外貨建て取引の状況

通貨 (千単位)

区分		通貨		
		ドル	ユーロ	オーストラリア ドル
フロー	販 売	68,939	6,903	2,650
	仕 入	59,795	29	2,454
	差 額	9,144	6,874	196
ストック	債 権	68,942	1,740	593
	債 務	15,572	0	284
	差 額	53,370	1,740	308

※A & D 単体での状況です

配当金と配当性向について



経営基盤を強化し、積極的事業展開や投資等により企業価値を一層高めるために、内部留保の充実を中心に据え、連結配当性向は10%以上を目処に

